

北海道剣淵農業高等学校の行動計画（グローバル・アグリハイスクール宣言 Part II）

全国の農業高校の行動計画		学校において令和 5 年度に重点化する取組及び具体的方策		
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	目標達成期間	具体的方策
I グローバル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	(1) 全ての科目において、プロジェクト学習を取り入れ、課題解決学習を主軸とする学習を実践する。	A	(1) 授業担当者は、課題解決学習を授業の中で実践する。
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	(1) 剣淵町の姉妹都市であるペルー共和国タルマ市の特産物キヌアの栽培を通して、グローバル教育を実践する。	A	(1) キヌアを栽培し、食文化や活用について学習する。国際教育につながる学習活動を展開させる。
II 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	(1) 町の特産物であるジャガイモやマメ類等を生産することで、地域の理解と栽培過程を学習する。 (2) キヌアの栽培を実践し、特産物の理解を深めるとともに活用方法についても学習する。	A B	(1) 特産物栽培において、播種から収穫までの作業体系を体験し、知識・技術の習得に努める。 (2) 実際にキヌアを学校圃場で栽培し、キヌアの生理生態を学習する。
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	(1) 2年次における町内農家委託実習、3年次における産業現場実習を実施し、地域産業構造や6次産業など、地場産業の理解に努める。	A	(1) 2年次農家委託実習5日間、3年次産業現場実習5日間において、農業や地域関連産業に従事することで職業や地場産業の理解を深める。
III 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	(1) 温室栽培における冬季のハウス施設の暖房を節約（灯油の使用を抑制）。 (2) プロジェクト学習における循環型農業の推進に努める。 (3) バイオ炭を活用した環境保全型農業を推進する。	B B B	(1) 低温でも栽培できる作物を栽培し、灯油使用料を極力制御する。 (2) 廃棄された地域資源の有効活用を目指すプロジェクト活動を実践する。 (3) 農場にバイオ炭を投入し、環境保全に努める。
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	(1) 絵本の里ならではの取り組みとして、絵本を教材とした地域資源を活用し、情操教育に繋げた取り組みを実施する。 (2) 道北の海洋副産物を活用した農業生産を推進する。	B B	(1) 絵本の読み聞かせなどを通して得られる教育力を見つけ出し主体的にそれらを活用する取り組みを実践する。 (2) 海洋副産物を飼育している鶏へ飼料として給餌する。
IV 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	(1) ICTを用いたスマート農業について、近代的農業経営における学習を実践し理解を深める。	A	(1) 外部機関と連携し、先端技術を学ぶため見学等を実施し、理解を深める。
V 地域防災を推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	(1) 定期的に防火査察を実施し、日頃から地域防災意識を高める。 (2) 自然エネルギーの活用を意識した教育を実践する。	A B	(1) 毎月1回防火査察を実施し、万が一に備えた防災教育を推進する。 (2) ソーラーパネルを設置し、その電力で扇風機などを稼働し夏場の環境改善に活用する。